

登録コード	HM133800	開講年度	2026			
授業題目	分子病理学特別研究				担当教員	奥山 隆平 他
英文授業名	Research Thesis in Molecular Pathology				副担当	藤井 千文・山中 仁木・川久保 雅友
単位数	10	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	備考	博士課程3年次
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能 ⇄				疾病の病因、病態にせまる病理学研究において課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力	
(2)詳細/Detailed information	分子病理学領域の研究課題について研究を行い、その研究成果を論文としてまとめることを目的とする。					
(3)授業の概要/Overview of course	分子病理学領域の研究課題について、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。					
(4)授業計画/Course plan	(藤井千文) 細胞生物学的並びに分子細胞学的手法を用いて、発がんメカニズム及びがんの進展機構の解明に向けた研究の指導を行う。 自然免疫応答、炎症、細胞死を調節する分子機構の解明に向けた研究の指導を行う。 (山中仁木) ピロリ菌以外のヘリコバクター属菌感染による消化管病態誘導あるいは生体への影響に関する研究の指導を行う。 (川久保雅友) ヘリコバクターピロリを対象とし、慢性胃炎の病態形成に関する研究の指導を行う。					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法：研究に取り組む姿勢と提出された論文により評価する。 成績評価の基準：(i) 研究課題の背景を理解でき、(ii) 実験の原理並びにその解析方法を説明でき、(iii) 得られた結果を客観的に評価でき、(iv) その結果について考察でき、(v) その関連課題に関する関連文献を挙げることができる、の5項目で評価する。教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」と評価する。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	研究を開始する前にAPRIN eラーニングプログラムと遺伝子組換え講習のeラーニング、必要に応じて動物実験講習会を受講しておくこと。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡を取ること。					
(8)授業の形式/Course format	実習形式で行う。受講者は定期的に開催する分子病理学教室セミナーに参加し、研究の進捗状況を報告する。					